



ば は ら

波原便り高

県立辺土名高等学校
令和7年7月15日(火)
発行者 校長 桃原健次
第8号

1年生:自然・野外学習

7月11日(金)「総合的な探究の時間」として、1年生は「野外での郷土の自然に親しみ、自然環境のバランスやその大切さを学ぶ。地層、岩石、生物などの観察を行い、郷土の成り立ちや、地質、生物などについて学ぶ。」ことを目的に沖縄本島北部の自然環境を対象に野外学習を行いました。

国頭村の座津武では、過去の数万年前の海面上昇や下降によって波などで削られてできた海岸段丘、辺戸岬で数万年前の海底にサンゴや貝類の死骸が積もってできた岩石が雨水で浸食されてできた石灰岩地形と、潮風・乾燥など厳しい環境で育つ海浜植物、辺野喜ダムで植物群落遷移、名護市底仁屋で地層の断層と地殻変動などの大きな力で地層がS字上に曲がってしまった横臥しゅう曲(写真)、東村慶佐次では、海水でも育つ特殊な能力を持った植物の集まりのマングローブ(種名ではありません)の観察を行い、北部の特徴的な自然について学びました。



3年生:平和・野外学習 7月11日(金)

3年生は「地域の戦跡を巡ることで戦争の悲惨さ等を体感し、人権蹂躪の最たるものが戦争であることを考える機会とし、また、自分たちの故郷の歴史を考え、現在の状況と結びつけ、未来に向けて何ができるか、平和を自分事として意識することの大切さを実感させる。」ことを目的に今回は本部半島の戦跡等を見学しました。

当日は本部町の謝花国民学校跡や軍艦に関連した鎮魂碑、本部防空監視哨跡(写真:左)、羽地小学校近く田井等の防空壕(写真:右)などを見学し、ガイドの山本氏(本部町立博物館)、比嘉・山城氏(名護博物館)の丁寧で分かりやすく説明していただきました。今回の野外学習で、当時の教育、軍人、市民、社会情勢等について知り、創造することで、平和について考える機会になりました。



体験型職業ガイダンス

7月2日(水)4~6校時 全学年

本時は総合的な探究の時間として、社会で自立し働いていくために必要な知識(職業・資格・収入・社会人基礎力など)を学年別で体験的に学び、今後の進路選択・決定に役立てることを目的としており、「働き方&収入仮想体験ワーク」「仕事・資格77+3種類パズル」「職種・役割マップ」等のワークショップや「自己分析簡易検査」、社会人から直接聞く進路・職業別分科会など、社会経験の豊富な方に直接質問することができる場面もありました。今後の自分自身の進路決定に向けた取組に期待!



国連職員による講話

7月3日(木)6校時、全校生徒を対象に国連イラク事務所職員の鶴渕鉄平氏(浦添市出身・高江洲 教頭の友人)による講演会を行いました。鶴渕さんからイランとイスラエルのミサイルによる攻防や世界各地での紛争が続いている世界の現状が話され、国連の役割については「無力だという思いに悩みながらも、国連の人間は世界を平和にする努力を続けている。なぜなら、『世界を平和にする』というのは、世界中の人がのぞんだ夢だから」。また、生徒へ、①世界平和、②SDGs、③それらを目指す自分。3つに共通するテーマ...→「将来の夢と比べて今がどんなにダメでも、それでも、夢を目指し続けること」というメッセージがありました。

国際的な職場に勤める方の話を伺って、世界の動きを身近に感じることができた時間でした。

